

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600384		
法人名	株式会社 ふれあい		
事業所名	グループホーム樽川ふれあいはうす		
所在地	石狩市樽川3条2丁目 97番地		
自己評価作成日	令和5年5月30日	評価結果市町村受理日	令和5年7月13日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域にイベントや行事などには積極的に参加して交流を深めています。近所に大きな公園もあり四季折々のお花が楽しめます。季節ごとに大型バスを利用してお花見・紅葉狩り・雪まつりなどに出かけています。普段からみんなで出来る工作などの物作りにも力を入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0177600384-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0177600384-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年 6月23日

事業所は最寄りのバス停から近く、周辺には神社や大型公園、食事処、市場等がある。また、地域内には法人本部や多様な系列の事業所が所在しており協力関係にある。菜園には、ブドウ棚や野菜、花々が植えられ利用者はテラスから成長ぶりを楽しんでいる。コロナ禍により停滞していた運営推進会議や神社祭の参加などの地域交流、家族など大切な人々との交流、外出行事等の再開を検討している。3年間の自粛生活は高齢化も伴い少なからず影響があり、改善に向け身体機能の向上、五感刺激に繋がる活動等を視野に入れた寄り添いの支援を続けている。健康面でも月2回の往診医や看護職員による週2回の健康チェック、さらに看護師の資格を有する介護職員もおり、ちょっとした変化も相談や指示を仰ぐことができ迅速な対応が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な会議の中で話し合い、日々ケアの実践の場で立ち止まり、自ら振り返るよう心がけている。	法人理念を事業所理念とし、さらにユニットごとにケア理念を策定している。要所に掲示している各々の理念を目にすることで意識を新たに、実践できているかを確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し清掃などに参加している。	回覧板で夏祭りなど町内会行事の中止が伝えられている中でも、資源物回収の協力や介護相談は快く受け入れている。住民からはマスクが届いたり、事業所横の雪捨て場で遊ぶ子供達に利用者は笑顔で手を振っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オンライン研修などに参加しています。全体会議などで報告し情報を共有している。市の研修を受け認知症まちかど相談所として看板を上げています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナのため推進会は書面上で行っていました。今年から再開します。地域の方々との交流の場として活用していきたいと思っています。	会議は書面で行われ、利用者状況や活動内容等を議事録にまとめ、意見や提案を記入する用紙も同封して推進委員や家族に郵送している。令和5年度の8月を目途に対面会議を予定している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の訪問などがあり、ホームの状況を見て意見を頂いています。研修にも参加し地域密着型としての機能を生かせるよう取り組んでいます。	行政との関わりは主に管理者が担っているが、案件によっては法人職員が対応し、健全な運営に繋がっている。保健所とは感染症関連に対しての情報や助言、必要な物品が届き、拡大防止に生かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議などの場において身体拘束の指針を作成し読み上げています。3か月に1回、身体拘束適正化対策検討委員会を実施し身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	職員は、定期的な適正化委員会や研修会でスピーチロックなど事例とその弊害について学び、チェックリストで自身のケアを確認している。モニターを設置は、必要性を家族に説明して理解を得ており、不法侵入者や転倒防止等に効果が出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などで話し合い、日々の言動や行動で虐待などはないか注意を払い防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議などで説明し、理解出来るように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にケアに関する考えや取り組みの説明を行っています。重度化や看取りについての対応など説明し同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方の要望や不満など、さりげなく聞き出すなど、思いに添えるよう努めています。スタッフの間でも情報を共有し反映出来るよう	感染症対策を講じて玄関での窓越し面会が実現していたが、屋内での面会を望む声が出ている。家族には毎月、写真掲載の「はうすだより」を発行し、さらに誕生日の写真を添えて利用者の日常を伝えている。利用者からは直接聞かれないが、要望の把握に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にユニット会議があり全職員が意見や提案を出せる機会を設けています。	代表者は、感染症予防対策として玄関スペースを広げ、面会用と一般出入り口を設けるなど環境整備に取り組んでいる。管理者は、職員の自主性を重んじ、居室担当や業務の役割分担等で力量が発揮できるよう支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者やスタッフと交流を持ち向上心を引き出される努めています。研修参加や資格習得に向けての取り組みも行っていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	協議会主催の研修に受講できるようにし、全体会議にて報告し職員全体で共有出来るようにしています。働きながら、学ぶ機会を大切にしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やグループホーム連絡会などに参加して交流を深めて、ネットワーク作りに取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族を交えた面談を通じ入所への不安を把握し、ゆっくり話を聞く機会作り信頼関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでじっくり話し合いご本人やご家族に状況を把握して入居後も報告・相談を行い信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の状況を把握し何が必要なのか話し合い支援の方向性を見極めて柔軟に対応するように心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事はして頂き、出来ない所を支援するようにしている。笑いのある会話を心掛けより良い関係が築けるようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや電話・面会時など、日々の様子を詳しくお伝えしたうえでご要望など聞くようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご協力などを得て買い物などに出掛けられるよう支援しています。知人・友人の来訪時もゆっくり過ごして頂けるよう配慮しています。	家族や親族との窓越し面会、電話や手紙の取り次ぎ、入浴時には昔話に耳を傾けるなど、利用者にとって大事な関係性が維持できるよう努めている。家族の支援で法要に参列し、また、外来受診時は、馴染みの店に立ち寄っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ間で利用者同士の関係んびついて情報を共有し個々にあった過ごし方が出来るよう、他者とのふれあいの場面作りにも配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際にはお見舞いに行ったり、退院後について相談があった場合には助言させて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で観察しています。ご本人のニーズや暮らしの希望、ご本人の訴えなどから問題や課題を把握し改善を図っています。	意思疎通ができる、少し難しいなど利用者の状況によって異なるが、日々の会話や、表情、しぐさ、拒否などから思いを推し量っている。介護記録や家族からの情報も判断材料となり、利用者が満足できるよう職員間で協議している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や面会時にご家族から伺ったり会話の中で情報を得て把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活のリズムを把握すると共にその時の身体的・精神的な変化を見極めながら把握するようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの要望や思いを聞きその人らしく暮らせるような計画が出来るようにカンファレンスを行い個々に出した意見を反映出来るように心がけます。	介護計画の更新時や体調急変時は、予め得ていた利用者や家族の意向を前提として職員間で協議している。現介護計画の評価や課題分析を行い、医療関係者の意見も踏まえ、現状に適した支援目標を設定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中から気付いたことを記入し情報を共有し会議などで検討しプランに反映できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族からの要望に添い急な外出・外泊にも柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には市職員や民生委員の方に参加して頂いています。近隣の学校との交流や避難訓練には地域住民の協力を得ています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医と連携を図り、定期的受診や往診で体調の変化に配慮しています。	希望の受診先を優先しているが、利用者全員が月2回の訪問診療を選択している。歯科医の往診体制も整え、また、専門医への受診は、家族と協力して支援している。看護職員による週2回の健康チェックも行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しています。日常の健康管理をしており24時間体制で連絡がとれるようにしています。日々の体調についても相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は支援方法についての情報共有を行い、ご家族と共に情報交換して早期退院に向けての連携を図っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族より、事前説明・重度化看取りの指針について説明し同意を得ています。また随時意見を聞いています。	重度化や終末期における対応を指針で説明して意向を確認している。利用者の意向は、日々の関わりでそれとなく聞くように努めている。職員は、関係者と方針を共有し、最期の支援に全力で臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生術やAEDの講習会に参加して緊急時に対応できるよう努めています。緊急マニュアルを整備しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施しています。近隣の方にも参加呼びかけています。石狩地区防災ガイドで確認し危険な場所と避難場所を確認しています。	日中・夜間想定火災避難訓練を行っている。毎日、消防自主点検表にチェック、自然災害時のマニュアル作成、ハザードマップ上で危険度や公的避難場所の確認等を行い、非常時に備えている。	法人にBCP(業務継続計画)作成の確認を行い、今後の避難訓練に生かすと同時に、水害に備えた避難所が近くに無いことから市や町内会と課題解決に向けた話し合いを行い、さらなる防災・減災への取り組みに期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関しては、各居室にトイレがあり出来るだけ他者に気付かれないよう声掛けするなどプライバシーが守られるように配慮しています。	理念の中でも人格の尊重を謳っており、職員は実践に努めているが、不適切な言動がある場合は、職員間でも注意し合う関係にある。研修での学びや管理者による助言により職員は正しい理解の下、利用者に寄り添っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物・飲みたい物・着たい服など出来るだけご本人の意見を引き出せるように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の気持ちを尊重し、その人らしく暮らしていけるように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や整髪などご本人の意見を確認しながら一緒に準備するよう心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き出してメニューに取り入れています。準備や後片付けも一緒に出来るような場面作りに配慮しています。	各ユニットの職員が利用者の要望を取り入れて献立を作成しているが、朝食は在庫の食材を使って食卓に上げている。豊富な内容になっており、行事食に加え、誕生日は要望を取り入れ、利用者は常に完食している。菜園の野菜やブドウが食卓に彩りを添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や好みなどの把握、水分チェック表で確認しながら飲水して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に合わせて声掛けや介助にて行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の様子や時間・排泄のパターンなど把握し出来るだけトイレで排泄出来るよう支援しています。	ベッド上での支援もあるが、トイレでの排泄を基本としている。トイレは居室に設置されているが、利用者の状態に応じてすぐ駆けつけるなど、羞恥心に配慮して出来ない部分を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のバランスや水分の摂取量と共に、排便の確認や医師から処方された下剤を服用する事で予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけご本人の希望に沿った形で入浴して頂けるよう配慮しています。入浴拒否や体調不良の方は曜日を交えるなど柔軟に対応しています。	入浴は回数や湯加減、拒否等の要望を取り入れながら週2回を目安に支援している。状態によっては介助用車椅子をフラットにしてのシャワー浴、半身浴、家族の協力を得ての入浴で保清に努めている。入浴は、歌や情報が得られる場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調や気分に合わせてゆっくり安眠・休息出来るように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のファイルがあり、用法・容量について把握するよう努めています。服薬忘れや誤薬がないよう声掛けしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々によって、掃除・食器拭き・音楽鑑賞など役割や楽しみが持てるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩や買い物など一緒に出掛けています。歩行が困難の方も車イス使用して積極的に戸外に出るよう支援しています。	感染症防止対策により外出行事は自粛している。開けた窓から風を感じ、テラスから菜園の花や野菜の成長を眺め、公園までの散歩、外来受診後の買い物などは利用者にとって軽い刺激が得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じてお金が使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時に電話や手紙が出せるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が混乱しない程度に配置換えをしたり、カーテンによる日差しの調整やお花を飾って季節感を出すように工夫しています。	1日の大半を過ごしている共用空間が安らげる場所になるよう、採光や清掃、温湿度や音の調整等に配慮している。レクの作品である季節飾りや塗り絵等を掲示している。調度品は動線を確保して設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	バルコニー・食堂・リビング・畳など、皆さん思い思いの場所で過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談の上・ベット・タンス・テーブル・椅子など使い慣れた物や好みの物を持ち込んで使っている方もいます。	7・5畳の居室には、クローゼット、トイレ、洗面台、物干しが用意されているが、馴染みの調度品を持ち込んでいる。母の日に贈られた花や写真を飾るなど、プライベート空間が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた声掛けをし混乱を防ぎ安心・安全に生活が送れるように工夫や配慮しています。手すりの配置・バリアフリーなど。		